

全国学力学習状況調査の結果と今後の取組

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」として、平成28年4月19日（火）、3年生を対象に、「国語・数学に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施しました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたのでお知らせします。霧丘中の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただければ幸いです。なお、本調査により測定できるのは学力の特定一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指していきます。

★ 調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	全国平均との比較及び分析
国語A（主として知識に関する）	全国平均をわずかに下回ったものの昨年度より上昇していた。	話す・聞く能力については概ね理解できている。文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題は正答率が高い。言語についての知識・理解・技能に課題がある。考えが的確に相手に伝わるように考え、書く能力をさらに指導する必要がある。
国語B（主として活用に関する）	全国平均をわずかに下回っており、書く能力に課題があるのが分かった	文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く問題は正答率が高い。文章などから必要な情報を読み取り、内容を理解する問題に課題がある。文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題の無回答率が高い。
数学A（主として知識に関する）	全国平均をわずかに下回っているが数学的スキルは概ね理解できている。	二元一次方程式の解の意味を理解する問題の正答率が高い。全体的に基礎的な言葉が示す内容について理解を問う問題に課題がある。四角形をその面と垂直な方向に動かすと、四角柱が構成されることを理解する問題の正答率が低かった。
数学B（主として活用に関する）	全国平均をわずかに下回ったものの、昨年度より上昇していた。	グラフの傾きを事象に即して解釈する問題の正答率が高い。表や資料から必要な情報を読み取り、数学的に表現したり説明したりすることに課題がある。筋道を立てて考え証明したり、数学的表現を用いて説明したりする問題についての無回答率が高い。

【質問紙調査の結果分析 学習状況・家庭学習習慣に関する調査結果の分析】

- 学校での学習は全国平均を上回っており、霧中ノートや「めあて・まとめカード」の活用など言語活動の充実とわかる授業の実施に関する取組の推進の成果が良い結果となって表れてきている。
- 昨年度と比べて、「自分には良いところがある」と思う生徒の割合は高くなり、全国平均を上回った。
- 自分で計画や課題を立て、実行できる生徒の割合が、全国と比べて低い。子どもが自主的に取り組むような手立てや工夫が必要である。
- 自主学習ノート「霧中ノート」の効果が表れて、家庭学習の習慣が定着しつつある。また、塾などの、学校以外の教育機関で学習する生徒の割合は、全国平均と比べて低いが、家庭での学習が定着し学習意欲が旺盛である。
- 2時間以上家庭学習をしている生徒の割合は、全国平均と比較しても高く、また本校の課題である「まったくしない」生徒の割合も大幅に減少している。
- 学校図書館の利用者が増加しており、読書活動が学習面においてよい影響を与えている。

【課題解決のための重点的な取組(教科)】

- ◎教員の授業改善（わかる授業）に関する取組の推進
 - ・アクティブラーニングの導入や、ICT 機器の活用を促進し、授業力向上を図り、生徒の学習意欲向上に資する。
 - ・教員の校内・校外における研修の充実（校内学力向上研修会等）
 - ・毎時間の授業において、「めあて」と「まとめ」カードの活用
- ◎学習規律の向上を目指す取組の推進
 - ・集団づくり等「心の育ち」をねらった教育活動の推進（積極的な生徒会活動）
 - ・「授業五則」の徹底（時間厳守・礼儀尊重・場を清め・正しい姿勢・目で聴く）
 - ・各授業のチャイムスタートを徹底し、教室の学習環境を整える。
 - ・考査の受け方ルール統一と指導の徹底 教室掲示物等の学習環境整美
- ◎学力向上のための取組時間の実施
 - ・各学年における朝自習のまとめテストの定期的実施
 - ・英検、漢検の実施。英語科においては単語コンクールを実施
 - ・各学年とも、到達度検査前には、総合や裁量の時間を使い、実力養成を行う。
- ◎過去問題・アシストシート・活用力を高めるワークの活用
 - ・定期考査前に試験範囲表を配り、生徒による予想問題テストを作成させ、その中の問題も定期考査に出題させ基礎・基本の徹底を図る。
 - ・長期休業日に各教科、学年ごとにプリント複数枚とワークを宿題として実施する。
- ◎言語活動の活性化
 - ・自主学習ノート「霧中ノート」を活用し、明日の時間割・連絡の記入その日の反省などを書かせ、担任が点検するなどの、書く学習習慣の確立に取り組む。
 - ・全校生徒にボランティアによる読み聞かせを実施し「聞く」能力と態度を育成する。

【課題解決のための重点的な取組(家庭生活習慣等)】

- ◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り「われら若者」（月2回発行）
 - ・学年通信・学校ホームページで学校の実態と概況を保護者・地域に広報
- ◎基本的な生活習慣の確立
 - ・PTA と協力し「早寝・早起き・朝ご飯」運動を推奨 生活習慣クラスマッチの実施
 - ・同じく「ケータイ・スマホ夜10時電源オフ」運動の啓発
 - ・学校・生徒の課題をもとに、家庭訪問や学期ごとの保護者懇談会・学校便りで広報活動し、PTAにも協力を依頼していく。
- ◎学習習慣の定着に向けての取組
 - ・自主学習ノート「霧中ノート」を活用し、家庭学習の習慣を身につけさせる。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・定期考査前などに、「予想問題」や「学習計画」などに取り組ませる。
 - ・長期休業期間（夏季、冬季）の前には各教科で自作の課題を与える。また併せて家庭学習の計画も立てさせる。
 - ・小学校と連携し、新入生に「春休みの宿題」を配布
- ◎「家庭学習のススメⅡ」の説明を保護者会などの機会をとらえて行う。